

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 九段日本文化研究所日本語学院

1. 事業名称 千代田区におけるボランティア日本語教育の活性化と拡充のための支援事業

2. 事業の目的

ボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワーク組織である「東京日本語ボランティア・ネットワーク」の協力を得て、地域の課題を的確にとらえた、日本語教育事業を展開。

地域社会とのコミュニケーションにおいて重要な役割を担う外国人主婦や母親などを対象に、最低限のコミュニケーションを可能とする日本語スキルの取得や地域社会のルール、マナーへの理解促進を図られるような日本語教室の運営を中心に、日本文化教室(茶道、書道教室)や弁護士による外国人生活相談など、長年に渡る日本語学校運営により培われた学習のためのリソースを活用し、語学指導に留まらない、多面的な指導により、学習者の日本社会への参画を促進するとともに、自ら積極的に外部とコミュニケーションを取りながら問題解決を図っていくという生活者としての生活力向上を支援していく。

3. 事業内容の概要

外国人は、日本語能力が十分でないこと、そして、日本の文化や生活習慣等の社会システムに対する理解が十分でないことから、地域社会との間で軋轢や摩擦が生じる場合がある。特に、地域社会と家庭との接点において、非常に重要な役割を担うであろう主婦や母親といった女性が、職場や学校などにおいて日本人と触れ合う機会が多い夫や子供たちより、日本語理解力が低い傾向にある。また、女性は家庭にすることが多く、孤立しがちでもある。しかも、前述の通り、千代田区における学習者のニーズを調べたところ、千代田区を中心とする東京都心地区では、これら主婦(主夫)や母親からの日本語学習希望者が多く存在するにも関わらず、千代田区には日本語ボランティア教室は1教室しかないのが現状であった。

そこで本事業においては、「生活者としての外国人」の中で、特に外国人女性を対象にした教室を企画。より実践に即した日本語教室の運営や専門家による生活相談などを通じて、学校での母親同士のコミュニケーションや町内会など地域社会への参加が円滑に行われるように支援する。また、茶道、書道といった日本の文化を学ぶ日本文化教室も同時に展開。日本の文化や習慣を理解するのはもちろん、外国人女性が自分の居場所がみつけられ、積極的に日本人や日本社会と関わる場や機会を提供することで、輝き、充実した生活が送れる生活基盤づくりをも支援していく事業としたい。

また、全体テーマとして、教える日本人(ボランティア指導者)と教わる外国人(学習者)が、本事業を通じて心を通わせ、真の意味での国際交流・文化交流、そして同じ地域社会の仲間として豊かな人間関係の構築が図られるような事業を目指す。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 9月24日 11:00~12:30	1.5時間	九段日本語学院8F ラウンジ	細野 祐二 梶村 勝利 海老根 紀子 小早川 麻衣子 北川 淳子	運営委員会紹介 文化庁委託事業内容と日程 募集方法	講座日程(曜日や時間帯、期間) 募集方法と媒体、告知先など
2	平成25年 10月29日 10:30~11:30	1時間	九段日本語学院 803教室	梶村 勝利 林川 玲子 島崎 春荷 海老根 紀子 小早川 麻衣子 北川 淳子	カリキュラム内容検討 募集方法と追加募集方法	カリキュラム内容について 募集の現状報告 ボランティアのための講座募集時期
3	平成25年 12月17日 10:30~11:30	1時間	九段日本語学院 801教室	梶村 勝利 林川 玲子 島崎 春荷 海老根 紀子 小早川 麻衣子 北川 淳子	日本語講座状況報告 生活相談内容検討 ボランティア講座内容	生活相談の内容について ボランティアのための講座の内容について
4	平成26年 1月28日 10:30~12:00	1.5時間	九段日本語学院 801教室	梶村 勝利 林川 玲子 小早川 麻衣子 北川 淳子	外国人のための講座文化体験報告 ボランティアのための講座状況	ボランティアのための講座使用教材について
5	平成26年 3月4日 10:30~12:00	1時間	九段日本語学院 803教室	梶村 勝利 林川 玲子 島崎 春荷 海老根 紀子 小早川 麻衣子 北川 淳子	ボランティアのための講座報告 書道、生活相談実施報告 今回の反省点、次回への改善点	今回実施の反省点及び次回実施する場合の改善点について

5. 日本語教室の実施

- (1) 講座名称 女性のための日本文化・日本語総合講座
- (2) 目的・目標 外国人主婦や母親などを対象に、日常的な日本語コミュニケーション力を身につけるとともに、地域社会の一員として生活するために必要な情報を得る。
- (3) 対象者 千代田区を中心とする周辺地域に居住する外国人(非日本語母語話者)女性
- (4) 開催時間数(回数) 45 時間 (全 15 回)
- (5) 使用した教材・リソース 本事業において作成したオリジナル教材
- (6) 受講者の総数 5人
(出身・国籍別内訳 イタリア1人、オーストラリア1人、フランス1人、ドイツ1人、アメリカ1人)
- (7) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成25年11月07日 9:30-12:50	3時間	九段日本語学院8階教室	4	オーストラリア、フランス、ドイツ、アメリカ	自己紹介	初対面のあいさつと便利な表現、気持ちを表す相づちの言い方を練習する、身の回りの暮らしの言葉(名詞)を確認する	鈴木能理子、吉池佐知子	
2	11月12日 09:30~12:50	3時間	九段日本語学院8階教室	5	オーストラリア、フランス、ドイツ、アメリカ、イタリア	健康を保つ	1.体の部位の名称を知る。 2.病気の表現を知る。 3.p.c.で、自宅近くの病院を調べる。場所、診療科目、時間、休日など 4.医者にどのように症状を伝えるか、医者と患者になり練習。 5.ひらがな(平仮名未習者) 漢字(平仮名・カタカナ既習者)	鈴木能理子、吉池佐知子	
3	11月14日 9:30-12:50	3時間	九段日本語学院8階教室	4	オーストラリア、フランス、ドイツ、アメリカ	薬を買う	風邪を引いた時など、近くの薬局で薬を買う時の表現を練習する。日本の一般的な薬の種類と使い方を確認する。	鈴木能理子、吉池佐知子	
4	11月19日 9:30-12:50	3時間	九段日本語学院8階教室	3	オーストラリア、フランス、ドイツ	大変！自然災害や事故	災害時の避難場所をそれぞれに確認する。非常袋の必要品リストを作り、災害への備えを意識する。ヘルプカード作成。注意標識の読み方と意味。	鈴木能理子、吉池佐知子	
5	11月21日 09:30~12:50	3時間	九段日本語学院8階教室	3	オーストラリア、フランス、ドイツ	住環境	1.漢字(ゴミ出しの曜日で使う月~日) 2.引っ越しの際の手続きについて 3.請求書の見方について(ガス・電気) 4.ゴミ出しについて、地域のルール 各国のゴミ出しルールの違いを知る。	鈴木能理子、吉池佐知子	
6	11月26日 9:30-12:50	3時間	九段日本語学院8階教室	2	フランス、ドイツ	買い物と外食	スーパーでの買い物会話を練習する。ちらしの読み方。デパートで売り場を尋ねる。レストランでの会話とメニューの読み方。	鈴木能理子、吉池佐知子	
7	11月28日 09:30~12:50	3時間	九段日本語学院8階教室	2	フランス、ドイツ	外食する	1.漢字(商品の色選びで使う、色) 2.レストランに入り、精算して出てくるまでに必要な日本語会話の流れを把握する。 3.メニュー読みでカタカナ、金額読み確認 4.カフェ、レストランでの注文会話練習 5.料理について質問(ベジタリアン) 6.各自料理のレシピを紹介、各国の支払い事情も紹介	鈴木能理子、吉池佐知子	
8	12月03日 9:30-12:50	3時間	九段日本語学院8階教室	2	フランス、ドイツ	いろいろなサービスの利用	美容院、クリーニング店、カラオケ、スポーツセンター利用時の言葉と会話例を練習する。申し込み用紙の書き方を確認。	鈴木能理子、吉池佐知子	
9	12月5日 09:30~12:50	3時間	九段日本語学院8階教室	2	フランス、ドイツ	金融機関を利用する	1.漢字(家族) 2.日本の銀行口座の有無から、作った時の話をしてもらう。 3.口座の申込書の書き方から日本の住所の書き方を知る。 4.ATMの使い方 特に学生のドイツ語フランス語対応のガイドがないので、日本語で必要な漢字表記の説明 5.自国のATM事情を紹介	鈴木能理子、吉池佐知子	
10	12月10日 9:30-12:50	3時間	九段日本語学院8階教室	1	フランス	公共交通機関	駅でプリペイドカードや定期券を買う時の会話、場所が分からない時の質問、タクシー利用時の言い方を練習する。	鈴木能理子、吉池佐知子	

11	12月12日 09:30~12:50	3時間	九段日本語学院8階教室	2	フランス、ドイツ	徒歩で移動する	1.漢字(仕事) 2.わからない漢字の読み方を聞く。 3.道をきく。 4.道順を説明したり、説明を聞いて道順がわかる。	鈴木能理子、吉池佐知子	
12	12月17日 9:30-12:50	3時間	九段日本語学院8階教室	2	フランス、ドイツ	近所の人とつきあう	天気の良い方を含めた挨拶。お知らせについて質問し、イベントに参加する。参加者と少しずつ親しくなる会話例を練習する。	鈴木能理子、吉池佐知子	
13	12月19日 09:30~12:50	3時間	九段日本語学院8階教室	3	フランス、ドイツ、エジプト	マナーを考えよう・まとめ	1.漢字(春夏秋冬) 2.人と付き合う時のマナーについて話す。 3.電車の中、食事の時、携帯のマナーなど自国と日本との違いについて話す(驚いたことなど)。 4.日本での常識(結婚式、お葬式、お祝い等)を紹介。文化の違いを知る。	鈴木能理子、吉池佐知子	
14	1月16日 09:30~12:50	3時間	九段日本語学院1階教室 & 茶室	3	フランス、ドイツ、エジプト	茶道体験生活相談	1.先生からお茶を点ててもらい、その後自分たちで点ててみる。座り方、立ち方、生菓子の食べ方やお茶の飲み方を学ぶ。 2.ゴミの捨て方や交通ルール、それにまつわる問題となった事例レクチャー	青山宗佳、海老根紀子	
15	1月21日 09:30~12:50	3時間	九段日本語学院8階教室	2	フランス、ドイツ	書道体験生活相談	1.先生から筆の持ち方から文字の運び方を学び、自分たちで書いてみる。 2.引越しなど不動産に関係した日本のルールと問題となった事例、痴漢などの犯罪に関するレクチャー	島崎春荷、海老根紀子	

(8) 受講者の募集方法

英語、日本語の案内チラシを作成し、市役所、大使館、保健所、小学校、教会、文化センター、レストラン、ゲストハウスに置かせてもらった他、交流会メンバー並びに大学生にも案内、知り合いがいれば渡してもらえよう告知を行った。

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

■第2回目(11月12日)

1コマ目 (50分)

- ・前回の復習を兼ねて挨拶・便利表現確認
おはようございます／すみません／これ、なんですか。／英語、大丈夫ですか。
ありがとうございます／いいえ 等
→ あいさつは常々使っていることもあり滑らか。便利表現のほうは、まだ言葉と意味とのつながりが弱く、とっさの場面ではすぐに出てこなそう。
- ・ひらがな未習者／既習者に分かれ、それぞれかなと漢字学習に取り組む。
(漢字:漢数字／人／日など助数詞相当)→漢字学習はご本人たちからの希望であり、非常に関心を持って参加していた)

2コマ目 (50分)	<ul style="list-style-type: none"> ・「1課:健康を保つ」がテーマ ・「近くに病院があるか／いったことがあるか」など、各自の日本での病院経験を引き出す。→「まだ医者にかかった経験はないがいつ必要になるかわからない」と関心は強いよう。このあたりは半分ぐらい英語で話している人も。 ・病院名を見て何の病院か考える(眼科／耳鼻科／など病院名と、体の部位の漢字を照らし合わせ、パズルのように。(まったく同じ漢字でなくとも、ヒントのように体の部分を示す漢字が病院名に入っていることを知り、楽しそうに取り組む) ・病院でのやりとり(テキストに沿って) T:どうしましたか。→[熱がある／咳が出る／～が痛い] なんです の会話を提示 (ここで、どうして「ん」が入る?という文法的な質問もでた) →体の部位を絵や自分の体を触りながら練習(みなさん初めてのようで熱心に覚えようとしていた) →覚えた語を入れて、病院での会話をする。 ゆっくりとでも、自分で作った「症状」が言えて、みなさん満足そう。
3コマ目 (50分)	<ul style="list-style-type: none"> ・問診票を書く →アレルギーや、持病、常用薬などをチェックする。 (特にアレルギーがある方はなし。簡単に済ます) ・家の近くの病院を確認しておく →PCを使ってgoogleで自宅近くの歯科・眼科など、すぐに行く可能性がありそうな病院を探す。(いざという時のために) →病院の名前／診療時間／休診日／家からの行き方などを、テキスト中の病院ノートにメモしておく。(ここで「何時から何時まで」「何の病院」等の質問表現を確認 →調べたのち、各自発表。 ・病院での大まかな流れ 受付→問診→診察→会計→薬局(処方箋を持って) (欧米系が多いので、少し込み入った話になると英語でのコミュニケーションになりがち。日本語力もほぼゼロの方から、初級後半程度の方まで様々。使用言語の種類やレベルにより疎外感を感じることがないように、参加者間コミュニケーションに気を配った。)

■第13回目(12月19日)

1コマ目	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の漢字(春夏秋冬／夜・朝など) →このコースで7, 80の漢字がわかるようになったと嬉しそう。駅で見かけた旅行のポスターの地名(青森)がわかったと報告してくれた。 ・各国に四季があるかという話から、一人が自国(フランス)の事情を話してくれる。(3/21～春、6/21～夏、9/21～秋、12/21～冬とのこと。)
2コマ目	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の続き(10課人と付き合う) 活動3 マナーや習慣について知る 音を立てて麺をすする／鼻をすする／電車の中で携帯で話す／人と話すときにいすに座って足を組む など、日常的な行動で、文化的な違いがありそうなものについて(テキストに絵がある)、「これ、日本では大丈夫ですか」と確認する。 (日本の習慣に合わせる必要はないが情報として知っていると、自分で行動を選べるというスタンス)
3コマ目	<ul style="list-style-type: none"> →各自の国について、聞きあう。ヨーロッパの方だけだったので、参加者の国の間ではそんなに大きな違いはなさそうだったが、楽しそうに情報交換していた。 ・その他日本と自国で違うと常々思っていることを話してもらう。 マスク／路上パフォーマンスの取り締まりなど、こちらが想定している以上に様々な話がでてきた。 この日は言語的な練習よりも、異文化、習慣の違いなどの情報を交換し合うのがメインになった。日本語で言いたいことがすべて話せるわけではないので、時折英語やジェスチャーも混ざったりするが、情報の伝達という点で非常に活発な活動となった。

■第14回目(1月16日)

1コマ目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 季節の漢字(春夏秋冬／夜・朝など) →このコースで7, 80の漢字がわかるようになったと嬉しそう。駅で見かけた旅行のポスターの地名(青森)がわかったと報告してくれた。 ・ 各国に四季があるかという話から、一人が自国(フランス)の事情を話してくれる。(3/21～春、6/21～夏、9/21～秋、12/21～冬とのこと。)
2コマ目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の続き(10課人と付き合う) 活動3 マナーや習慣について知る 音を立てて麺をすする／鼻をすする／電車の中で携帯で話す／人と話すときにいすに座って足を組む など、日常的な行動で、文化的な違いがありそうなものについて(テキストに絵がある)、「これ、日本では大丈夫ですか」と確認する。 (日本の習慣に合わせる必要はないが情報として知っている、自分で行動を選べるというスタンス)
3コマ目	<ul style="list-style-type: none"> →各自の国について、聞きあう。ヨーロッパの方だけだったので、参加者の国の間ではそんなに大きな違いはなさそうだったが、楽しそうに情報交換していた。 ・ その他日本と自国で違うと常々思っていることを話してもらおう。 マスク／路上パフォーマンスの取り締まりなど、こちらが想定している以上に様々な話がでてきた。 この日は言語的な練習よりも、異文化、習慣の違いなどの情報を交換し合うのがメインになった。日本語で言いたいことがすべて話せるわけではないので、時折英語やジェスチャーも混ざったりするが、情報の伝達という点で非常に活発な活動となった。

■第15回目(1月21日)

1コマ目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 季節の漢字(春夏秋冬／夜・朝など) →このコースで7, 80の漢字がわかるようになったと嬉しそう。駅で見かけた旅行のポスターの地名(青森)がわかったと報告してくれた。 ・ 各国に四季があるかという話から、一人が自国(フランス)の事情を話してくれる。(3/21～春、6/21～夏、9/21～秋、12/21～冬とのこと。)
2コマ目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の続き(10課人と付き合う) 活動3 マナーや習慣について知る 音を立てて麺をすする／鼻をすする／電車の中で携帯で話す／人と話すときにいすに座って足を組む など、日常的な行動で、文化的な違いがありそうなものについて(テキストに絵がある)、「これ、日本では大丈夫ですか」と確認する。 (日本の習慣に合わせる必要はないが情報として知っている、自分で行動を選べるというスタンス)
3コマ目	<ul style="list-style-type: none"> →各自の国について、聞きあう。ヨーロッパの方だけだったので、参加者の国の間ではそんなに大きな違いはなさそうだったが、楽しそうに情報交換していた。 ・ その他日本と自国で違うと常々思っていることを話してもらおう。 マスク／路上パフォーマンスの取り締まりなど、こちらが想定している以上に様々な話がでてきた。 この日は言語的な練習よりも、異文化、習慣の違いなどの情報を交換し合うのがメインになった。日本語で言いたいことがすべて話せるわけではないので、時折英語やジェスチャーも混ざったりするが、情報の伝達という点で非常に活発な活動となった。



(10) 目標の達成状況・成果

今回のコースでは、地域で生活をしていく中で必要となる生活面の情報を、日本語を通して得てもらうという目標を掲げており、その点での参加者の満足感を知るため、コース修了時に参加者にコメントシートを記入してもらった。(最終回の出席者は2人だったので十分なフィードバックとは言えないが)

その中で「非常に役だった」「学んだことを生活で実際に使えている」などのコメントが得られ、一定の成果は得られたと言える。

オリジナル教材には、生活上の情報なども盛り込まれているが、それを基に、受講者どうしが自国のケースや、今自分が住んでいるところの状況などを自発的に話す場面が多々見られ、受講者が一方的に「日本の情報をもらう」だけでない双方向的な情報のやり取りを活性化できた本事業で作成したオリジナル教材をメインに用いつつ、基本として受講者のニーズに柔軟に対応することを意識した結果、受講者の希望で漢字学習(読みと理解中心)を毎回取り入れることとなった。テキスト内で扱っている生活漢字(ATMの表記/掲示・お知らせなど)とは別に、体系的に漢字の知識を増やしたいという強い希望があったためである。全員が欧米系の受講者であり、生活するうえで漢字を全く理解できない場合、情報に全くアクセスできず、非常に不安を感じるであろう。ボランティア教室においては、文字学習に拒否感を示す受講者も少なくないが、文字学習に抵抗がない人にとっては、漢字を知ることは、いちいち人に聞くことなく自ら情報を得られる便利なツールを手に入れることであると言える。漢字学習を押し付ける必要はないが、表音文字文化から来た非日本語母語話者に対し、そうした漢字の利点をもっと積極的に紹介してもよいかもしい。 (コースの最後に、駅に貼られていた旅行のポスターを見て地名がわかったと情報を得られた喜びを伝えてくれた受講者もいた。)

市販の漢字テキストを用いて体系的な学習をすすめるという点で迷いもあったが、日本語支援として、参加者の希望にできるだけ応えることに努め、参加者の満足を得られた。

(11) 改善点について

主たる受講者として、フルタイムの仕事を持っていない女性(主として主婦の方)を想定し、付近で活動しているボランティア日本語教室の時間設定なども参考にしつつ、かつ曜日が重ならないようにしたのだが、申し込み数、継続状況を見ると参加しづらかった可能性がある。

テキストを、毎回ほぼ1課づつ扱うというスタイルは「勉強」という感覚が強く、数回来られなかったら、もう「ついていけなくなってしまう」と思わせてしまったかもしれない。実際は、テキストの課はトピックによる違いであり、積み上げ型ではないので、例えば最初と最後の回だけ参加するというのでも、何かしら生活上に役に立つ情報を得られるような設計になっているが、参加者がどの程度そう意識していたかという点、不十分だった。来られるときに気軽に参加できるものだという点をもっと明示的に参加者に伝える必要があった。

地域性という点を意識し、テキスト内では千代田区の地域的な情報や、地域によって異なる生活情報の得方を扱っているが、結果として千代田区外からの参加者のほうが多かったこともあり「地域とのつながり」という部分は、それほど受講者に実感してもらえなかった可能性がある。元来、「地域性」の薄い千代田区のような東京都心部においては、そもそも希薄な地域の関係性を、日本語支援活動を通じて参加者の双方向ネットワークを構築するという積極的な形が求められるかもしれない。生活情報や、既存の地域イベント等の情報を得るというようなタスクだけでなく、日本語教室の参加者どうしで、小さなイベントを企画しそれを実施するというようなタスクベースのコース設計を再考する必要がある。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

- (1) 講座名称 日本語教室ボランティアのためのスキルアップ研修
- (2) 目的・目標 日本語ボランティアとして、日本語の教え方スキルの向上を目指しつつ、地域社会での良き相談相手、良き理解者として多文化共生を支える人材の育成。
- (3) 対象者 日本語支援活動に携わりたい(もしくはすでに活動している)住民(千代田区を中心として)
- (4) 開催時間数(回数) 24 時間 (全12回)
- (5) 使用した教材・リソース 本事業において作成したオリジナル教材
- (6) 受講者の総数 8 人
(出身・国籍別内訳 日本人 8人)
- (7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成26年1月16日 09:30~11:30	2時間	九段日本語学院8階教室	8人	日本人	このコースの目的・内容について	1. ボランティアとはなにか、皆さんに考えてもらおう。(「ボランティア」を考える上での6つのキーワード) 2. 小学生の国語の教科書と外国人用の日本語のテキストとの違いを考える。 3. 日本語で日本語を教えるということはどういうことか考える。	吉池佐智子・鈴木能理子	なし
2	平成26年01月21日 09:30~11:30	2時間	九段日本語学院8階教室	4人	日本人	日本語支援とは	1. ボランティアクラスの外国人参加者との会話及び接し方の基本について考える。(しぐさや褒め言葉など) 2. テキスト以外を用いて何が教えられるか(スーパーのちらし、手持ちのもの色々使用)レベルに応じた活動の方法	吉池佐智子・鈴木能理子	なし
3	平成26年1月23日 09:30~11:30	2時間	九段日本語学院8階教室	3人	日本人	どんな文法を教えるかではなく、生活上何ができるようにするかを考える。	1. ボランティアクラスは「義務」ではないので「強制」ではない 2. 店で聞く「敬語」を知りたいというニーズにどうこたえるか。(文法的に勉強、練習する以外に、どんな方法があるか) 3. 1課(健康を保つ)のテキストを使って、参加者にどんな情報が必要か、参加者がどんな情報を知っておいたほうがいいのかみんなで考える。	吉池佐智子・鈴木能理子	なし
4	平成26年01月28日 09:30~11:30	2時間	九段日本語学院8階教室	4人	日本人	ニーズ、レベルの多様性にどうこたえられるか。	1. ニーズの多様性にどう対応できるか。(皆が「勉強」を求めているのだろうか。人とのつながり、コミュニケーションの場を求めてきている人に、どう応じられるだろうか) 2. レベルの違う人々をどう援助するか。 3. オリジナルテキスト「1課健康を保つ」 4. 日本語で日本語を説明するアイデア(絵、ジェスチャー、写真など)	吉池佐智子・鈴木能理子	なし

5	平成26年1月30日 09:30~11:30	2時間	九段日本語学院8階教室	3人	日本人	ボランティアとしての関わり合い方を考える。	1. ボランティアとしての関わる時の注意点(公平性、相手との距離感、専門家、専門機関を紹介する大切さ) 2. 3課(安全を守る)のテキストを使って、どのような活動ができるか。	吉池佐智子・鈴木能理子	なし
6	平成26年02月04日 09:30~11:30	2時間	九段日本語学院8階教室	4人	日本人	「話をする」とはどういうことか。	1. どんな話題が提供できるか。(ただ、質問すればよいのではなく、またプライバシーを根拠り葉掘り聞くのではなく、「話題」はどこから見つけられるかを考える。 2. 災害への備え(オリジナルテキスト「3課安全を守る」)を用いて、外国人として日本で災害に遭った時に何に困るか、何が必要になるかを相手の目線で考える。	吉池佐智子・鈴木能理子	なし
7	平成26年2月06日 09:30~11:30	2時間	九段日本語学院8階教室	3人	日本人	日本語を振り返る	1. 日本語のテキスト(みんな日Ⅰ、Ⅱ)を見て気づいたことを話し合う(文末がです、ます) 2. 日常的にカジュアルな話し方もよく耳にするがなぜテキストには、「です・ます」の形が初めに出ているのか。(性別、年代を選ばない/丁寧な印象など) 3. 相手の属性によって、「普通の」話し方も違ってくることを確認 4. 4課(住環境)を使ってどのような情報が得られるか。	吉池佐智子・鈴木能理子	なし
8	平成26年02月13日 09:30~11:30	2時間	九段日本語学院8階教室	4人	日本人	分かりやすい日本語とは(1)	1. 海外経験/外国語力は必要か→ 外国語で説明することが「わかりやすい」のではない。相手の立場に立ち、発想の違いを理解できるという点が大切。 2. わかりにくい日本語(カタカナ語、漢語など)をわかりやすい日本語に言い換えてみる、 3. オリジナルテキスト「6課サービスを利用する」を用いて、どんな活動が考えられるか。	吉池佐智子・鈴木能理子	なし
9	平成26年2月18日 09:30~11:30	2時間	801教室	3人	日本人	分かりやすい日本語とは(2)	1. 一般的にわかりやすく話すにはを考え、次に外国人にとってわかりやすい話し方を考える。 2. 相手の日本語をどこまで直すかの例(内容を聞こうとしている例と、間違いに気を取られひたすら直しを入れるやりとりの例)を聞いて、考える。→実際に、外国人の発話例を見て、自分がどう対応するか考えてみる。	吉池佐智子・鈴木能理子	なし
10	平成26年02月20日 09:30~11:30	2時間	九段日本語学院8階教室	4人	日本人	文字学習の考え方	1. 日本語母語話者が陥りがちな「読めて、書けなければいけない」という意識から脱却する。(あくまでも相手のニーズ次第) 2. 場面に応じた漢字語彙の紹介など、一字一字の読み書き学習ではない「漢字」学習を考える。 3. オリジナルテキスト「7課金融機関を利用する」のATMの表示を例に、初級のクラスで漢字の語彙をどう扱うかを考える。	吉池佐智子・鈴木能理子	なし

11	平成26年2月25日 09:30~11:30	2時間	九段日本語学院8階教室	3人	日本人	分かりやす 日本語とは (3)	1. 外国人がわかりやすい文はどちらか(複文、単文の観点から) 2. 初級の非母語話者に(~てくれる、てもら う、受け身)など難しい形を、わかりやすく するには(→誰が何をするのかをはっきりさせる。) 3. タスク、自分で、実際の例(てくれる、もら う、受け 身)の文を言い換える。 4. 8課(公共機関を利用する)を使ってどのよ うな活動ができるか。	吉池佐智 子・鈴木能 理子	なし
12	平成26年02月27日 09:30~11:30	2時間	九段日本語学院8階教室	4人	日本人	日本語を通 して横りうる 誤解とは	1. 母語話者の日本語を相手が理解できないと いうだけではなく、非母語話者の発話を聞いて 母語話者が誤解(意味だけではなく、印象、意 図を)することがある。(「いいえ、~ません」と はっきり言われて気分が悪い等)文化や言葉 の違いで、生じるかもしれない誤解、摩擦を考 える。 2. 日本語のどのような点があいまいなのかを意 識、率直さ=無礼ととらえがちな日本語母語話 者どうしのコミュニケーションの枠を外して考え る。 3. オリジナルテキスト「10課人とつきあう」を用 いて、文化的な違いを一方向的に教えるのでは なく、互いに知り合う活動を試みる。	吉池佐智 子・鈴木能 理子	なし

(8) 受講者の募集方法

チラシを作成し、交流会メンバーへ送信、及び千代田区役所に登録しているボランティアの方々にメール

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

■第1回目(1月16日)

1コマ目・ ガイダンス
(60分)
ボランティアとは何か、意見交換→「互いに何かを吸収する」「外国人の自立の
手伝い」「自分の成長」「無償の行為」などの意見がでる。
日本語ボランティアとは何か →「日本語を教える」「無償性」など、「教える」という
言葉が新たに意見として出てくる。→「日本語」ボランティアと言っても、その他の
ボランティアと変わらず、日本を通したお手伝いであるという意識を持っていただく。
日本語と国語の違い
日本の子供向けのあいうえお表と、日本語学習用のあいうえお表/小学校の国語
の教科書と日本語教科書の1課を見比べグループごとに、違い、気づいた点を発表
してもらおう。
→(参加者からの意見)国語の教科書:物語や詩、お話などの内容が多い。日本語
教科書は実務的、日常生活の内容。(なぜそのような違いがあると思うか?)
→国語は、子どもが言葉を覚えるため。日本語教科書は母語で知っていることを日
本語で知るためなどの意見がでる。

2コマ目・ (60分) 日本語で日本語を教えるということ→どんな方法があるかグループで考えてもらう。ジェスチャー／インターネットの画像、写真／辞書／ゆっくり話すなどのアイデアが出た。→ (簡単な言葉での言い換え／絵をかくなどは出てこなかった) 実際にあった例(うまく伝わらなかった例)を紹介し、どうすればよいか考えてもらう。(グループワーク)

①「足」を示すために自分の足を指した。どんな勘違いが起こりうるか？
 ②「白」を示すために、壁を指した。どんな勘違いが起こりうるか？
 →(いずれも参加者からは出てこなかった。)①では「あし=靴」②では「しろ=壁」と勘違いされることがある。ではそのような勘違いを防ぐにはどうしたらよいか。考えてもらう。(グループワーク)

→①靴を脱いで直接足を指す／②紙や、絵の具の色を見せるなどのアイデアがグループごとにでる。→これらに対して、コメント、まとめ。
 (直接、その場にあるもので示すというのはわかりやすいが、「靴を脱いで足を見せる」というのに抵抗があるかも。実物を見せなくても、足の絵を描いたらどうか。常に説明する事物が眼前にあるとは限らない。簡単な絵を描いたり、モバイルツールで、写真を見せたりできると便利。
 どちらの場合も、意味を示すときの例が少ないために誤解がおこる。②の神や絵の具の色を見せるというのはいいアイデア。要するに「白」の例を「壁」の例一つで示すのではなく、いろいろな「白」を見せることで意味が伝わる。
 等、考え方の元となるところをシェア。)

実際に「犬」「歩く」「きれい」などの言葉をどう説明するか、グループで考えてもらう。
 →名詞の場合は、多くの場合絵を描くといい、／動詞の説明では、ジェスチャーを使いがちだが意外にわかりにくい／「きれい」は言葉そのものの意味を説明することはとても難しい。どんなものが「きれいか」という、使用例で示すと伝わるかも、などグループでの作業、発表を通して、言葉の意味を伝えることを実感してもらう。

■第10回目(2月20日)

1コマ目・ (60分) 文字の扱い方
 ひらがな・カタカナ・漢字→ これは「勉強しなければいけない」か？(日本語母語話者の中に無意識にある文字学習重視の感覚に気づいてもらう)
 外国人の目に、日本語の文字はどう映るか。→ アラビア語、タイ語など、日本人には馴染みのない文字を見てもらう→読むのも書くのも大変そうと実感していただく。
 → 文字についても、その人が勉強したいという場合に、どうお手伝いできるかという考え方で、手助けすることを確認。「書けなくてもいいが読めるようになりたい」というのも、「不完全」なわけではない。

漢字の扱い方
 「漢字を勉強したい」という人は多いが、どうお手伝いできるか。私たちが子供の時に勉強したように、書き順、読み方、書き方などを順番に勉強するのだろうか？
 また、どのような漢字から扱ったらいいと思うか。(画数が少ないもの？山とか川とか、簡単なもの?)など、問題を提起して、グループで意見を交わしてもらう。
 →読みや書き方は必要なさそうとはみなさん思っているものの、では、書いたり読んだりせずに、どう「漢字」を扱うかという、なかなか思いつかないといったよう。
 例の提示:「燃」という漢字→「燃えるごみ」「燃やすごみ」「可燃ごみ」など語彙レベルや、使用場面での例(ごみ収集の写真、絵など)で見ると、意味がわかり、漢字から情報を得ることができる。
 →みなさん、なるほどという反応。「使用場面」というくくりで、どんな漢字を知っていると便利か、考えてもらう。「禁」「注意」などアイデアが出てきた。

- 2コマ目 (60分)
- ・ オリジナル教材の7課(金融機関を利用する)を用いて、教材の中で、このような漢字学習をどう扱っているかを見る。
 - ・ ATMのパネルには「残高照会」「通常記入」「お振込」…といった様々な漢字語彙がある。(「難しい」「日本語がある程度できる人でないと無理そう」などの反応)
→実際にゼロビギナーの日本語教室で、この課を扱った時の受講者の反応を紹介。(「外国語表示は英語だけなのでも困っていた」「これがわかるととても便利」)
外国人にとっての漢字は難易度よりも、必要度を重視すると相手の役に立てることを確認。まだ日本語がそれほど話せない人(日本語で助けを求められない人)にこそ、「字を見て情報を得られる」ということがどれほど助けになるかを知る。
→これらの漢字語彙を、どう扱うか。(読み方をおぼえる必要はあるか/「残高照会」の4つの漢字の形を正確に覚える必要があるか等の質問を提示したうえでグループで考えてもらう)
→教材内の絵を使って、各言葉の意味を知ってもらう。ATMの取引パネルで使われる漢字語彙はある程度決まっているので、各語の中の特徴的な漢字が一つ、見てわかる(意味と繋げられる)ようになれば、いい。 —(教材内のタスクのやり方。そこに出ているすべての情報を説明し、理解し、覚えてもらうのではなく、何のために、どんな知識が必要で、そのためにどう練習するかという流れで考える)
 - ・ スマホ、ITツールの利用→自分が持っている範囲でよいが、使えると便利。例えば街中の漢字などの写真を検索してみせるなど。(みなさん、ぜひ活用したいとのこと)



(10) 目標の達成状況・成果

最後まで参加した4名の方からは好評価をいただいた。ボランティア経験のある方ばかりであったが、「改めて日本語と向きあえた」「日本語の難しさを知った」など日本語の捉え方において新し発見があったというコメント、また「文化の違いを知る」という点についても好意的なコメントが得られた。ボランティアの方のスキルアップ研修という、日本語教授法のような「教え方」よりの内容が求められることも多く、そうした内容と、実践的なボランティアの場面での活動内容をどう組み合わせていくかが、コース設計の課題の一つであった。今回、日本語教育についてはほぼ未習者の4名の方から、「すぐに使えるような教え方」「ポイント(が学べた)」などのコメントが得られたことは、「日本語教授法」的な知識へのニーズも、ある程度満たすことができたと考えてよさそうである。

この4名の方がこの後すぐにボランティア活動に参加したいと、都内で活動するボランティアグループへの参加を積極的に考えてくださったのも、一つの成果であると言えるだろう。また、「コースが始まる前に想像していたのとは違って」というコメントが一人の方からあった。これは、「日本語の具体的な教え方が中心かと思っていたが、ある意味期待と違ってより面白かった。」という肯定的なものであるが、これは募集時の内容提示の方法の問題を指摘するものでもある。募集時に内容がよく伝わっていなかったということは、1回参加して辞めた人たちの中には日本語教育の養成講座的な内容を期待して参加してみたが思っていたのとは違ったという人がいた可能性もある。狭義の日本語教授法ではなく広く、日本語を通したボランティア支援の方法を考えるという内容自体は一定の評価を得られたと言えるので、こうした内容を必要とする方たちの目に触れ、手が届くような講座にすることが今後の課題である。
(いずれも、最終回に行った受講者アンケートに基づく分析)

(11) 改善点について

参加者募集は12月に締め切ったが、定員の15人を超える申し込みがあった。(教室キャパシティの都合上15名を定員とした。)申込者は大きく2グループに分けられる。一つは千代田区の国際交流委員会などで、すでにボランティアとして活動していたり、これからしたいと考えている方々で、60代前後の比較的年齢層の高い方々のグループで、もう一つは、当校の学生との交流会(日本語でおしゃべりする会)に参加している20代の学生を中心としたグループである。このうち、コースの開始日にクラスに来たのは20代の申し込み者では、非常に少なく、申し込みの半分以下(8人中3人)で、いずれも2回目からは不参加となった。もう一つのグループからも、3名ほど初回から不参加で、2回目以降の参加者は、ほぼ4人で固定となってしまった。初日の参加者の時点で半分という点については、募集とコース開始の時期(年末年始を挟んだ)にも要因があるかもしれない。また、結果として当校の「交流会」からの参加者が、ほぼ全員、はじめから不参加、もしくは初回のみで終わってしまったことを考えると、そもそもの申し込み時から、それほどの強い意志を持っておらず、また当校の外国人学生と交流したいという動機と、地域の外国人を日本語を通じて支援するということが結びつかなかったともいえる。今回は、日本語支援者のすそ野を広げるという意識で広く参加者を募ったが、結果的に不参加者に席をあてがう形になってしまった。今後は、どのような人材を育成するのかをより明確にし、対象を絞って(日本語を含め、何らかのボランティアに参加経験のある人など)募集する方が、結果的にこのようなコースを必要とする方たちの役に立つかもしれない。また、1回のみで、不参加となった3、4名も20代の学生がほとんどであったが、彼らが想定していた内容と、コースの内容が異なっていたことも考えられる。募集告知により具体的なコース内容を提示したり、日本語学校でのクラス授業をイメージさせるような写真を差し替えるなど、募集チラシの内容も大きく変える必要があるだろう。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

- (1) 教材名称 『外国人生活者のためのコミュニケーションにほんご』
- (2) 対象
生活者として日本社会に参加したいと考えている外国人の方。(日本語レベルは初級から上級まで)
- (3) 目的・目標: 外国から来た方に、地域社会の一員として周りの住民とのつながりを構築するためのコミュニケーション手段を得ていただくこと。
- (4) 構成・総ページ数 : 総ページ数136ページ(表紙、奥付除く)
「生活者としての外国人」が日常生活を営む上で必要だと思われる場面を10課に分けて取りあげた。各課の構成は、以下の通りである。
- ①概要・活動のヒント
概要・活動のヒントには、【教室活動の目標】、【この課で勉強すること】、【活動のヒント】を掲載し、各課での目標や学習項目、そして、地域の状況や学習者の状況に合わせた教室活動を行うためのヒントを取り上げた。
- ②イラスト・写真シート
イラスト・写真シートは、教室活動のイメージをふくらませるイントロダクションの部分である、その課で取り上げる活動の事例をイメージできるような話題を「～話しましょう～」で取り上げ、その課に関連したイラストや写真を掲載した。
- ③活動シート
活動シートには、各課の場面で、生活上の行為の事例ができるようになるための活動を取り上げた。
その場面での会話や表現、タスクの他に、課によっては必要な言葉を「ことばバンク」にまとめた。
- (5) 教材作成会議の開催について (下記2回のミーティング以外はメールによる連絡で進めた)

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年9月28日 16:00～18:00	2時間	九段日本語学院	高橋亘・小早川麻衣子	教材の章立て検討	『教材例集』(p.255～)のカリキュラム案を参照しつつ、生活者にとって必須な場面を絞った。
2	平成25年12月26日 16:00～18:00	2時間	九段日本語学院	高橋亘・小早川麻衣子	ドラフト版の修正と完成までの工程確認	本プロジェクトの日本語講座「女性のための日本文化・日本語総合講座」で実際に使用してみてもの修正、付加等をまとめ、最終版への案を決めた。

(6) 使い方

本テキストは、単に「言葉を勉強する」ことだけを目的としたものではなく、外国から来た方に、地域社会の一員として周りの住民とのつながりを構築するためのコミュニケーション手段を得ていただくことを目標としている。テキスト内のタスクは、言語学習のための練習の為だけではなく、日常生活の各場面において外国人生活者の方にとって必要となる生活に密着した実践的なタスクを取り入れている。「テキストを教える」という意識ではなく、このテキストを題材として、お互いに活発なコミュニケーション活動が起こることを目指している。

本テキストは、場面ベースの1課完結型である。参加者のニーズ、興味に沿って、好きな課から始めることができる。各課の詳細(目的や使い方、活動前の準備など)は、各課の「概要と活動のヒント」に記載し、初めて日本語支援を行う方にも参照しやすいようになっている。

各課は、日常生活で必要となる会話や活動を中心に組み立てられており、「文法を順番に積み上げて学ぶ」というスタイルではなく、「こんなとき、どうする」「こんな場面で、どう言ったらいいか」など、生活上の場面、疑問に答えるような、生活上の必要な情報、表現を載せている。

本テキストは、クラス内での学習、活動のための「教科書」というだけではなく、日常的に携帯し、生活上の様々な場面で開いていただけるような「生活ハンドブック」としての使用を想定している。

(7) 具体的な活用例

■5課(買い物をする・外食をする)を用いた活動例

日本語レベル(入門、初級)

①イラスト/写真シートの絵や写真を指さしつつ、「スーパー」「レストラン」「喫茶店(カフェ)」などのことばを紹介。(相手の日本語力に応じて、「よくスーパーにいきますか」「何を買いますか」「うちの近くにスーパーがありますか」など、身近な話に繋げて、スーパーでの買い物のイメージを共有する。全く日本語がわからない場合は、絵を指しつつ言葉を紹介し、発音してみるだけでもよい)

②実際のチラシ、もしくはp.55以降の「ことばバンク」をみて、食品、日用品を言葉で確認しつつ、会話1の買い物会話に代入するなどして、買い物シミュレーションを行う。

テキスト内の挿絵もしくは実際のチラシを見つつ、「いくらですか」「～円です」など、値段を尋ねて言われた値段を書き取り、合っているか確認するなど、値段のやりとりの練習も織り交ぜてもよい。(数字を発話する必要はない。買い物場面では、値段を聞いて、それが理解できれば用が足りるので。)

③スーパーでのやりとりのほか、ショッピングセンターなどでの買い物、カフェやレストランでの食事など、相手の関心のある場面を選び、言葉、会話を紹介していく。(全てを順に扱う必要はない)例)レストランでの外食場面に関心がある場合

会話例の中の店員のセリフは、何を聞いているのかが分かればよく、言う練習をしたり、一語一句説明する必要はない。「何名様ですか」と言いながら、人数の絵が描いてある絵を示して「何人ですか」と言い換えるなどしても、意味が伝わる。

人数と、喫煙・禁煙を変えたりして、店員役のボランティアの方とやりとり練習を行う。

会話2では注文の練習ができる。日本語のレベルによって、「ハンバーガー一つ」など、助数詞を使ってもよいし、「ハンバーグと、サラダ、おねがいます」など、料理名を指定するだけでもよい。コーヒーを持ってくるタイミングの指定などは、すらすらいえなくても、このような質問をされるということを知るだけでもよい。また、アレルギーや宗教的に食べられないものがある場合の尋ね方については、相手のニーズを確認したうえで、できるだけ練習する時間が取れるとよいだろう。

④最後は会計の場面で、一連の場面が終結する。それぞれの練習をしたら、実際にレストランに入るところから、注文、会計までの流れをシミュレーションでやってみる。インターネットでダウンロードした飲食店のメニューなどを使うと、よりリアルで楽しい活動になる。

(8) 成果物の添付

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

ボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワーク組織である「東京日本語ボランティア・ネットワーク」の協力を得て、地域の課題を的確にとらえた日本語教育事業を展開。地域社会とのコミュニケーションにおいて重要な役割を担う外国人主婦や母親などを対象に、最低限のコミュニケーションを可能とする日本語スキルの取得や地域社会のルール、マナーへの理解促進が図られるような日本語教室の運営を中心に、日本文化教室(茶道、書道教室)や弁護士による外国人生活相談など、長年に渡る日本語学校運営により培われた学習のためのリソースを活用し、語学指導に留まらない、多面的な指導により、学習者の日本社会への参画を促進するとともに、自ら積極的に外部とコミュニケーションを取りながら問題解決を図っていくという生活者としての生活力向上を支援していく。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

・東京ボランティアネットワークの梶村氏、林川氏から、①ボランティア日本語教室へ通う方々のニーズ、現状 ②日本語ボランティアとして必要なこと ③ボランティア教室に必要な教材とは等月々の運営委員会において伺った現場の意見をできるだけ反映することを強く意識した。ボランティア養成コース、および教材作成においては、それぞれ、ボランティアの方々のスキル、意識向上、また文化庁のカリキュラム案を生かしつつ、現場で使える(使いたいと思ってもらえる)教材作りはある程度達成できたと言える。日本語教室については、当校の教員が実際のクラス実施にあったことや、当校の教室を用いたこともあり、「日本語学校でのクラス」という色の濃活動になってしまい反省が残る。(詳細は上述の通り)

・教材の効果的な検証については、今後できるだけ広く使っていただく中でフィードバックを得る必要がある。東京ボランティアネットワークの梶村氏、林川氏からは、「非常に見やすい」「絵が多く使いやすい」など、評価するコメントをいただき、都内のボランティア教室に数部配布があるといいというご意見があった。紙ベースで手に取れるところにあることが、使いやすさに繋がるということで、区役所や、東京ボランティアネットワークの事務所などにも、課ごとにプリントアウトしたものを置いたらどうかというご提案をいただいた。可能であれば、ぜひそうした形で公開し、広く多くの方に使っていただきたい。そうした使用者からのフィードバックを得て、より使いやすく、役に立つものへと、改善案を模索していきたい。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

- ・カリキュラム案は主として、教材作成時のシラバスづくりに用いた。教材例集と合わせて参照するなかで、まず意識したのは「何をそぎ落とすか」「いかにして地域住民に役立つ内容を取り入れるか」である。教材集案並びにカリキュラム案はいずれも内容が非常に多く、現場での使いやすさについては、東京ボランティアネットワークの林川氏、梶村氏がともに、使いづらい、このままでは使えないとおっしゃっていた。そこで、まずこのカリキュラムを、誰もが使えるような形で教材化するというのが、カリキュラム案の地域での活用への第一歩になると考えた。

「誰もが」というのは主として日本語教育に携わったことがない人のことを指す。そうした方々が具体的な使い方を理解して実践できる形になっているかという観点から教材集案を見ると、これもまた、そのまま使えるテキストというよりは、課ごとにまとめた資料集のようにである。

そこで、まず、内容面については、来日直後の外国人が地域社会で生活するうえで必要になる場面、行動という観点で、10の場面に絞り、かつそれが、非日本語母語話者の参加者、ボランティア支援者双方にとって役立つ形にするにはどうしたらよいかを考えた。

ボランティア支援者にとっての使いやすさの中で特に重視したのは、具体的にどう話をし、どう練習したらいいのかが、わかることであり、非日本語母語話者の参加者にとっての使いやすさとしては、どんな場面でどんな言葉や表現が必要かが整理されており、すぐに参照しやすいことを重視した。

例えば生活に密着した生の資料を載せる際には、そこからどのような情報が読み取れるのかをタスク化することで、双方とも、具体的な練習案がわかり、タスクをすることで生活上必要になる具体的なスキルを得られると分かる。ただ、「このような表があります」と生の資料を載せるだけでは、「まだ難しいですね」と飛ばすだけになったり、逆に一言一句解説したりするような活動をさせてしまうことにもなる。現場でこれを開いて実際に何が起こるかを常に考え、実際の活動に繋げるための梯子を設けることを強く意識した。

- ・カリキュラム案の地域への適用ということで、当初は「いかにして千代田区独自の内容を取り入れるか」という意識があったが、ボランティアセンターの方にアドバイスをいただく中で、単に地域の情報が入っていることが「地域性」なのではなく、この地域において求められる形での支援を実現できるような教材が「地域性のある教材」だという考えに変わった。

すなわち、千代田区のような都心部では、日本語自体を学ぼうという人々はまずは日本語学校へ行くという。ボランティア教室にくる人の中には、金銭的な理由で学校に通わずボランティア教室にくる方ももちろんいるが、そうではなく、日本人社会とのつながりや、人とのコミュニケーションを求めて日本語サロンに参加している方も多いという。

そうした方々のニーズに応えられるような教材、つまり、その教材を通じて、周りの人との接触やコミュニケーションを生むような教材、また、地域人として自立した生活をすることを支援できるような教材が、千代田区という都心部の地域性を持った教材ということになると考えカリキュラム案の地域への活用としての教材『外国人生活者のためのコミュニケーションにほんご』を作成した。

今後東京ボランティアネットワーク等での使用をはじめ、地域の外国人の目に触れる機会を広げ地域に根差した活動を支援する一助となることを目指したい。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

本事業において、まず教材作成に着手したがその際に東京ボランティアネットワークの林川氏、梶村氏から示唆に富む意見を多くいただいた。ボランティア教室にくる参加者のニーズ、レベルの多様性や、東京、千代田区という地域性(周りに日本語学校がいくらでもある)について、日本語学校がまわりにほとんどなく、「日本語ボランティア支援」に「日本語教育」をのものが求められがちな地方とは異なり、地域支援、生活支援としての視点を多く取り入れることが必要であるという指摘は、本教材を「テキスト」というだけでなく「生活ハンドブック」としての役割を持たせようとするに至った最も大きな根拠である。

また文化庁の教材集例についての率直なご意見も、本教材作成に大いに取り込ませていただいた。教材として使うには、細かすぎたり、情報が多すぎるなど、実際に使用する際の過不足は、「現場で使える教材」を考えるうえで非常に役に立った。

また、ボランティアのブラッシュアップ講座のカリキュラム作成においては、実際に日本語ボランティアに参加される方がたが、どのような方なのか、何を知っておくと、活動の一步として役に立つのか、何に興味を持っていただけるのかなどを、実際に多くのボランティアの方と接した経験を基に、お話しくださり、カリキュラム作りの基本的な方向性を決めるうえで学ぶところが大きかった。

(5) 改善点、今後の課題について

各取り組みについての改善点、課題は上記に記したとおりだが、3つの取り組みを通して言えることは、いずれも「地域とのつながり」の点で希薄であったことである。

「地域」を千代田区に限らず「都心部」と考えた場合にも、本取組が、都心部における日本語ボランティア支援として機能したかという点、「当校の取り組み」という非常に狭い枠内での試みでしかなかったと言える。時間的、人力的余裕がなく、結果として少人数でのせわしない試みになってしまったこともその一因である。

また、千代田区は勤務者は多いが、在住者は少ないという地域的な特性もあり、区内で草の根活動している日本語ボランティア組織も2か所と少ない。これら少ない活動グループとのネットワーク化を、今後はより積極的に行っていく必要がある。

がいこくじんじょせい

外国人女性のための

にほんぶんか にほんご そうごうこうざ

日本文化・日本語総合講座

とうきょう せいかつ うえ さいていいげん ひつよう べんきょう
東京で生活する上で、最低限必要なコミュニケーションやマナーなどを勉強してみませんか？

くだんにほんごがくいん じっさい おし こうし ちよくせつまな とくべつ
九段日本語学院で実際に教えている講師から直接学べる特別コース。

さどう しょどう にほんぶんかたいけん べんごし せいかつそうだん
茶道や書道などの日本文化体験や、プロの弁護士による生活相談もあります。



にっつい
日程 : 11月7日～1月16日

かよう もくよう
火曜・木曜 全15回

じかん
時間 : 9:30～12:50

ばしょ くだんにほんぶんかけんきゅうじょにほんごがくいん
場所 : 九段日本文化研究所日本語学院

りょうきん むりよう
料金 : 無料

ていいん
定員 : 20名

とちゅうさんかかのう
※途中参加可能

おうぼほうほう かき ねが
応募方法: 下記アドレスまでお願いします。

j.kitagawa@kilc.co.jp

きがる と あ
お気軽にお問い合わせください。

九段日本文化研究所日本語学院
Kudan Institute of Japanese Language&Culture



〒101-0061

ちよだくみさきちよう ていとみさきちよう
千代田区三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル 1F

くだんにほんぶんかけんきゅうじょにほんごがくいん
九段日本文化研究所日本語学院

TEL) 03-3239-7923 FAX) 03-3239-7920

たんどう きたがわ
担当: 北川 Email: j.kitagawa@kilc.co.jp

URL: www.kudan-japanese-school.com/bunkacho/index_jp.php

Designated Program by Cultural Agency of Japanese Government

Japanese culture and general Japanese lectures for foreign women

Would you like to try studying essential communication and manners along with living in Tokyo?
Special courses that can be studied under lecturers who actually teach at the Kudan Institute of Japanese Language.

Japanese cultural experiences such as tea ceremony and calligraphy, along with consultations about life with professional lawyers are available.



Date : 7th November ~ 16th January

Tuesday • Thursday (15 Lesson)

Time : 9:30 ~ 12:50

Place : Kudan Institute of Japanese Language & Culture

Tuition : Free

Capacity : 20 person

※ You can join in midway

● Contact details for inquiries

j.kitagawa@kilc.co.jp

Feel free to contact us for any questions.

九段日本文化研究所 日本語学院
Kudan Institute of Japanese Language & Culture



〒101-0061

Email ↓

Teitomisaki Building 1F, 2-7-10,
Misaki-cho, Chiyoda-ku, Tokyo
TEL) 03-3239-7923

Person in charge : Kitagawa

Email : j.kitagawa@kilc.co.jp



URL : www.kudan-japanese-school.com/bunkacho/

日本語ボランティアの為の スキルアップ研修

日本語ボランティアの方、またこれから日本語ボランティアとして
かかわっていきたくと考えている方は、この機会に是非ご参加ください。
九段日本語学院で実際に教えている講師から直接学べる特別コースです。



日程 : 2014年1月16日~2月27日

毎週火・木曜日 (全12回)

時間 : 9:30 ~ 11:30

場所 : 九段日本文化研究所日本語学院

料金 : 無料

定員 : 20名

申込〆切り : 12月末

応募方法 : 下記アドレスまでお願いします。

j.kitagawa@kilc.co.jp

お気軽にお問い合わせください。

 **九段日本文化研究所 日本語学院**
Kudan Institute of Japanese Language&Culture



〒101-0061

千代田区三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル 1F

九段日本文化研究所日本語学院

TEL) 03-3239-7923

FAX) 03-3239-7920

担当 : 北川

Email : j.kitagawa@kilc.co.jp

URL : www.kudan-japanese-school.com/bunkacho/volunteer.php

Email ↓

